

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900056		
法人名	一般社団法人いがしま		
事業所名	グループホームいがしま		
所在地	沖縄県名護市字久志192番地		
自己評価作成日	令和元年10月8日	評価結果市町村受理日	令和元年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4790900056-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=4790900056-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和元年	11月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の思いを大事にしながら、その人らしく生活していただけるよう、日課を決めず、ある程度、自分の意志で生活できるよう個別支援に力を入れています。久志区が母体という事もあり、久志区との連携に力を入れて、近隣住民との繋がりを大事にしています。利用者様各々、役割を持っていただき、生活にメリハリが出るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、「地域の高齢者は地域で支援しよう」との思いから久志区が運営者となり、市東部地域において唯一の認知症対応型共同生活介護事業所として閑静な集落に開設し、7年が経過している。事業所は、地域の一人として、区の諸行事に利用者全員で参加するとともに台風等の災害時は、区の消防団の見回りがあり、備蓄品も区で保管される等連携している。食事は、調理担当の職員を配置し、利用者の嗜好を反映させた献立や食事形態に配慮し、3食とも事業所で調理し、利用者と職員と一緒に円卓を囲み、家庭的な雰囲気です食事を楽しめるよう支援している。協力医療機関と連携し、月2回の訪問診療の他、夜間の往診や電話での相談対応等、24時間連絡体制が確立し、利用者の安全や安心が得られている。身体拘束をしないケアの方針の下、身体拘束や虐待防止の研修を実施する等、拘束しないケアを実践している。介護計画は、自宅訪問や買い物、起床時のコーヒーの提供等、利用者や家族の意向を反映して作成し、利用者の個別ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に利用者様の思いを受け止め、思いやりの気持ちをもって実践に繋げている。	理念は、2年前に施設長と管理者により、これまでの経営理念から分かり易い表現を意識した介護理念へと見直している。理念はフロアに掲示し、毎朝、唱和するとともに職員採用時は介護主任が説明し、共有している。管理者と職員は、職員主導のケアではなく、利用者の視点に立ったケアを意識しながら、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区民の方が集まりやすい公民館へ出向く、散歩することで近所の方との交流を持てる機会を作り、区の行事にできる限り参加し地域の方と交流できるよう努めています。	法人代表者が民生委員を務め、運営推進会議には区長とともに参加している。区出身の利用者が過半数を占め、日常的に売店や公民館まで散歩を行う他、区の諸行事には全利用者で参加し、住民と交流している。地域住民が杖等の福祉用具や野菜等の差し入れに立ち寄ることもある。毎年、中学校の体験学習の受け入れに協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校児童の職場体験を毎年、数名受け入れております。また、区の行事などで隣に席を設けて話をしてもらう事で理解や支援に繋げている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、民生委員、区長、利用者様、ご家族に参加していただき、意見交換や活動状況の報告などを行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、昨年、職員体制上の理由で開催されず、今年度は、5月から2カ月毎に3回、開催している。会議には、利用者や行政、地域代表者は毎回参加しているが、家族は1回で、知見者の出席が確認できない。会議では、活動状況や事故報告等が行われ、委員と意見交換し、議事録を整備しているが、外部評価結果や議事録の公表には至っていない。	運営推進会議は、年6回以上の開催、及び知見者の参加に向けた工夫が望まれる。議事録や外部評価結果についても、訪問者が自由に閲覧できることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話などで相談。または、直接、行政に出向き近況報告などを行うなどし信頼関係を築いている。	行政とは、運営推進会議で情報交換を行う他、会議の案内で担当課に出向いた時に、事業所の状況を伝えている。毎月、更新手続きや生活保護、障害者自立支援手帳の申請等で関係課と連携している。昨年度は、行政に職員の確保等、事業所の課題を相談し、事業所のアピールや広報活動への助言があり、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束委員会の構成員となり、3ヶ月に1回勉強会を行い理解を深めている。また、外部の研修にも参加している。施錠は夜間のみ行う	身体拘束をしないケアの方針で、玄関等は施錠せず、一人で外出する利用者には、散歩等への同行や事業所向かいの売店に連絡を依頼する等、連携している。身体拘束適正化の指針を整備し、全職員で構成する適正化委員会を3カ月毎に開催し、記録を整備している。新人職員には、身体拘束禁止の研修を義務付け、現任職員にも定期的に研修を実施している。	身体拘束等の適正化委員会の構成委員には、第三者の委員も参加する運営推進会議を活用することが望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力だけではなく言葉使いなどにも注意し、虐待とはどういうものか周知徹底している。勉強会の機会を確保できていないので改善していきたい。	虐待防止については、マニュアルを整備し、職員に周知している。「身体拘束も虐待にあたる」や「スピーチロック」等、身体拘束と虐待防止を合わせて職員研修を定期的実施し、虐待防止の理解に努めている。職員が利用者に「待って」や「座っていて」等、気になる言葉遣いがあった場合は、その場で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は担当の方の職場に出向くなどし連携を密に取っている。その後、職員へ周知し理解を深め利用者様の支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において管理者にて文書・口頭で説明し、家族の方の了承を得ています。契約後も、不安や難しい点がないか確認し理解していただけるよう努力しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、利用者様、ご家族の方と、気軽に話ができる関係ができています。玄関に意見箱も設置している。要望があれば調整しご家族と一緒に対応するなどしている。	利用者の意見や要望は、日頃の関わりの中で聞いている。「三枚肉やティビチが食べたい」や「朝はコーヒーを」等の声を、食事に反映している。家族からは、面会時等に聞き、「家に連れてきてほしい」には、自宅訪問を実施し、「職員数を増やしてほしい」には、近隣地域や専門学校に求人募集等を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な会話や職員会議で聞き取りを行い、提案のあった事を検討し実際のケアの現場で活かせるよう努力している。	職員意見は、日常会話や職員会議等で聞いている。職員から「現在使用中の転倒リスクの高い旧型の車椅子から、フットレストの開閉機能付きや重度化対応にヘッドレスト付きの車椅子購入」の提案があり対応している。利用者と職員が、一緒に朝食が摂れるよう起床時間を見直している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は職員がいつでも観覧できるようにしており、把握していると思われる。プライベートも充実できるよう希望休も取り入れ、年休も交代で取得しやりがいが持てるように努めている。	就業規則が整備され、休暇や通勤・残業・有資格者手当等、規定されている。健康診断は、勤務形態に関わらず、全職員、年1回の実施となっている。有給休暇5日間の行使について管理者はチェックをし、職員に取得を促している。利用定員に対応できる職員数の確保や職員がやりがいを持って就労できるような給与体系の確立等、諸条件の整備に期待したい。	健康診断については、労働安全衛生法に則って夜勤(週1回以上)を定期的に行う介護職員は、年2回以上の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等で専門的な知識を深めるために、順次、研修に参加している。事業所内での研修もインターネットの動画などを参考にしながら行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は同業者との交流機会はなかなか難しく、研修に参加した際に交流ができていると思われる。管理者としては、同業者で情報交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には、必ず本人の自宅に出向き、出向く事が難しい場合は事業所に来所していただき、不安な事や要望をゆっくり聞いている。また、最初だけではなく少しずつ聞くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には、必ず本人の自宅に出向き、出向く事が難しい場合は事業所に来所していただき、不安な事や要望をゆっくり聞いている。また、最初さけではなく少しずつ聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と相談の上、思いや不安を受け止め、必要とする支援を優先に考え、柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、本人ができる事をなるべくやって頂けるよう促し、その際、職員も一緒に事をやる事により関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を報告し、何かあれば電話でも報告している。ご家族と職員が日常的に会話をする事で共に利用者様を支える関係を築いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、公民館や売店に出かけ、地域との関係が継続できるよう心掛けている	利用者のこれまでの暮らしの情報は、本人や家族、地域の人等から把握している。利用者の過半数が区出身者で、利用者間や職員も馴染みが多く、区の行事参加や日常的な散歩等で馴染みの人と交流している。ドライブで、以前働いていた場所や馴染みのパン屋で買い物をしている。毎朝のコーヒーを習慣としていた利用者には、継続して楽しめるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志がコミュニケーションをとったり、レク活動の中で関わり合いをもち孤立せず楽しんで生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した際にも「気軽に顔を出して下さい」「いつでも連絡下さい」などと声をかけている。また、医療機関に移った方でもご家族に時折り連絡を入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望に合わせ、本人本位で興味がわくように努めている。困難な場合は、表情などから把握できるよう努力している。	利用者の思いや意向は、日々の関わりの中で把握している。利用者からの「朝はコーヒーを」や「パンと牛乳が好き」等の声には、起床時のコーヒーの用意や買い物支援等を介護計画に位置付けて支援している。会話等、困難な場合は、筆談やゼスチャーでの把握や声かけへの反応等からくみ取るとともに家族にも確認し、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からの情報やこれまで利用されていた事業所からの情報によって把握に努めている。また、日々、利用者に接する中で得られた情報をその都度職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録を記入することによって、現状の把握と共有に努めている。その結果、本人が暮らす為の不安感がなくなり安心感のある暮らしの支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から要望を聞き、計画作成担当者が中心となり介護計画を作成する。その後、暮らしていく上本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について、意見やアイデアを出し検討し介護計画を作成している	担当者会議には、利用者や家族、計画作成担当者や施設長の他、主治医や看護師が参加することもある。「マッサージを受けたい」には、「転倒防止にリハビリやマッサージ」を位置付け、介護計画を作成している。計画は、長期目標を認定期間、短期を半年とし、短期目標の支援内容に沿って記録の整備やモニタリングを実施している。状態変化に応じて随時、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を記入し、情報を共有しながら実践に生かしている。チームでの介護計画の見直しは今後の課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、柔軟な対応を行っている。その人にとってどのような支援が必要なのかを考え、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関しては課題が残る。もう少し掘り下げて、一人一人に関わる事を探していきたい。近隣住民との交流機会は確保されているが、ボランティアなどもう少し考慮したい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、利用者様全員が協力医療機関へ受診又は往診を受けている。ご家族、本人の希望で他科も受診し適切な医療が受けれるよう支援しています。	入居時に利用者、家族の同意を得て、全員が協力医に変更している。協力医による訪問診療や24時間オンコールでの対応が行われ、夜間の往診にも応じており、医療連携が築かれている。健康管理マニュアルを整備している。5名の利用者が自立支援医療の制度を活用している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康報告書を作成し、主治医・看護師と連携を取りながら利用者様の健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、必ずお見舞いに行き、病院関係者との情報交換・相談に努めている。必要性があれば退院に際してのカンファレンスにも参加している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎える利用者については、その段階で家族・主治医を交えた話し合いをして、事業所としてできるケアを提案し支援している。	重度化や終末期に向けた方針については、折にふれ、家族に口答で説明している。看取り支援については、職員会議でも課題として検討しているが、現状では支援に限界があることを確認している。重度化及び看取りについて、事業所ですることを明文化し、利用者や家族に説明の上理解を得ることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の医師、看護師と24時間連絡が取れる体制になっている。夜間の緊急時には医師が訪問できる協力体制を整えている。応急手当に関しては、職員で考え看護師の助言を得ながらできる範囲で処置を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の対応の仕方については、消防署の協力のもと訓練を行なっている。区の消防団との協力体制も構築できている。	本年度は、職員体制等が整わず、災害対策の訓練は未実施となっている。通報装置等の備品は、業者による年2回の定期検査が行われており、災害時対応マニュアルも整備されている。台風時には、区の消防団の見回りがあり、災害時の備蓄品は、区民として区で保管されている。	各種災害への対策として、マニュアルをもとに昼夜を想定した年2回の訓練の実施が望まれる。また災害時対応の食料品等の備蓄品は、事業所内での保管も併せて望まれる。



自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少しできない事を手助けするというスタンスで自尊心にも気を配り対応している。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、入浴や排泄介助は同性介助を実施している。居室に鍵をかけることを希望する利用者には応じている。居室ドアの一部のガラスには、目隠し用の紙貼りなどで、プライバシーの確保に配慮されている。プライバシー保護・接遇・苦情対応マニュアルを整備し、職員に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな状況でも無理強いや押し付けるような事はせず利用者様の思いを大事にし、自己決定できるように心がけている。自分の意思を表に出す事が難しい方の場合も表情などからくみ取る事ができるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、個々のペースに合わせ、本人の思いをくみ取り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやネイルなど各々が楽しめるよう声かえしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に合わせ、食事の形態等の工夫を行いながら、必要な栄養が摂れるようにし、片付けや食器洗いもできる範囲で手伝ってもらっています。	調理専従職員が昼・夕食をつくり、朝食は夜勤者が調理しており、利用者が野菜の下ごしらえや食器洗いに参加している。職員会議の議題で、調理方法や形態、献立、利用者毎の食事の特性等が検討されている。円卓で食事をし、お互いの表情等の様子が見え、職員も一緒に会話をしながら、なごやかな雰囲気です。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を職員間で共有し1日に必要な量を確保できるように努めている。摂取量に問題のある方は、主治医に相談し栄養状態が低下しないように対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯洗浄剤、舌ブラシなどを使用し清潔が保たれるようにしている		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用はなるべく避け、ご自分でトイレにいける方についてはなるべくトイレでの排泄を促がしている。オムツ使用の方についてもなるべく、トイレでの排泄を勧めている。	日中は、重度の利用者以外は、全員トイレでの排泄を支援している。排泄の失敗が多い利用者もトイレでの支援を継続し、軽減が図られている。排せつ自立に向け、歩行訓練を行い、下肢筋力の低下防止に努める等、個々に合った支援を職員間で共有し実践している。綿パンツを使用したことで皮膚かぶれが改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせて、咀嚼や消化しにくい食材の時は小さくきざむ、ミキサー食で提供するよう工夫し、軽リハビリを取り入れ予防に努めています。主治医と連携し個々に合わせた下剤の調整も行っています		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴であるが、別の日に希望がある場合は対応できるようにしている。	一日置きの入浴を支援している。時に入浴を嫌う利用者があるが、3、4日目では入浴している。入浴剤に拘りのある利用者は、家族に依頼し、個別に準備している。入浴時に音楽を流し、リラックスした雰囲気づくりにも努めている。入浴介助マニュアルが作成されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその時の状況に応じて、居室またはソファで休養できるように対応している。また、夜間よく眠れるように、日中なるべく起きてもらう工夫をしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を個人のファイルに綴っており、職員一人一人がすぐに目を通し確認できるようにしている	服薬管理マニュアルに沿って、誤薬予防のため3重の確認をしている。与薬時には、職員が利用者の名前を声に出して確認し、飲み込む様子までを目視している。個別台帳に処方箋を添付し、処方内容を職員間で共有するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が何をできるかを考え、楽しみごとの支援をしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内や事業所周辺の散歩。近くの海辺など、お話をしながら外出している。また、本人の希望があれば、定期的に外食や買い物にも出かけている	事業所周辺の散歩や区の行事への参加、区売店での買い物等の外出を支援している。家族の希望があり、職員の介助で重度の利用者の自宅訪問を実施し、家族の意向を反映した事例がある。管理者は、今後は全体での外出や外食等の機会を増やしたい意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる利用者に対しては、一緒に買物に行った際にお金のやり取りの支援をしている。お小遣いを自己管理されている方もいます。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年12月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたりする機会はないが、電話のやり取りができる方に関しては職員が番号を押すだけで後は、本人に任せ家族と話がしたいときに話せるようにしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節の飾り付けを行い、季節感を感じてもらっている。また、音楽をかけたり面白DVDを見ながら大声で笑ったり居心地よく過ごしている	居間兼食堂は、ガラスの掃き出し窓があり、採光や風通しが良く、玄関先には、出入り時の休憩ができるよう長椅子が設置されている。居間からは、厨房での調理の様子が見え、食欲へと繋げている。3か所のトイレは、いずれも車椅子対応で、シャワートイレの設備となっており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間の設置やベッドで休むことのできる場所の確保・ソファでくつろぐことのできる場所を設けている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にこれまで使っていた物を運んでもらい、安心して生活できるよう家族へ助言・相談行う。また、本人の居心地の良いように適宜職員と整理整頓を行っている。	各居室は、ガラス戸づくりの掃き出し口から屋外にも出られ、採光や風通しが良く、景色も一望できる造りとなっている。電動ベッドとクーラー、吊り棚が設置されている。衣類等は、季節毎に家族が自宅で管理し、入れ替えをしている。壁には、写真や作品等を飾り、テレビ等、私物を自由に持ち込み、それぞれが居心地良く工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの室内に、廊下の手すりをもうけ、安全に移動することができるようにしている。また、脱衣場にも手すりをあとから設け、本人の能力を活かして入浴できるようにしている。浴室の手すりにはすべり止めを後から貼り付けている。		